

2025年度 日活健康保険組合 保健事業 重症化予防事業 がん検診・オプション検査費用一部補助

日活健保では、保健事業・重症化予防対策として、以下のがん検診および費用補助を実施いたします。
ご活用いただきたくご案内いたします。

1. オプション検査費用一部補助

今年度より、「がん検査（腫瘍マーカー）」のみへの補助から、がん検診等、傷病の早期発見・早期治療につながる健診時におけるオプション検査全般に対する補助へと補助の範囲を拡大しました。

また、「郵送がん検査」については、自己採取によるクオリティの問題や、検体採取後の管理状況等から、正しい検査結果が得られない可能性が指摘されており、がん健診は対面で行うことが推奨されていることから中止しました。

対象者	40歳以上の被保険者・被扶養者（2026年3月31日までに40歳を迎える方含む）
補助額	年度に1回 3,000円を上限に補助 注）1検査3,000円に満たない場合は検査費相当額を補助 複数の検査を行なう場合は、検査費合計金額に対し3,000円を補助
補助申請期限	2026年 3月20日（金）まで（健保着・厳守）
補助方法	下記①・②を健保に提出 ① 健診時のオプション検査総額の記載された領収書 ② 別添「がん検診等オプション検査費補助申請」 ※領収書がない場合（婦人科検診等、後で健保から請求書を受け取る場合）は、 ②の「オプション検査補助申請書」のみを健保に提出下さい ※提出は、健保への郵送または被保険者に渡し、事業所経由で提出ください
対象検査	<u>人間ドック、生活習慣病健診、特定健診、巡回健診、事業所で行う法定健診（定期健診） 時におけるオプション検査全般（自己負担による検査）</u>

※ 胃部X線検査（バリウム）から胃カメラへの変更差額も対象となります。

※ がん検診に限らず、全てのオプション検査が対象となります。

※ 健診とは別に保険診療で受診した検査（二次検査等）は補助の対象外です。

※ 事業主が負担する婦人科検査等は対象外です。

※ 市区町村で実施のがん検診については、すでに行政による補助なされているため対象外です。

※ オプション検査の領収書紛失の場合は補助金をお支払いできません。

申請書のみ提出にて対応できるのは、領収書が発行されない場合のみです。

2. 被保険者 大腸がん検診（便潜血検査）

対象者	40歳以上の被保険者（2026年3月31日までに40歳を迎える方含む）
補助額	全額補助
補助方法	事業所における法定健診（定期健診）時に受診いただきます

3. 被扶養者のがん検診（大腸がん検診・肺がん検診等の健保費用負担）

対象者	40歳以上の被扶養者（2026年3月31日までに40歳を迎える方含む）
補助額	全額補助
補助方法	「特定健診」「巡回レディース健診」時に受診いただきます
補助詳細	「特定健診」基礎検査項目に加え、心電図検査、胸部X線検査、大腸がん検査（検便）を追加、 「法定健診」と同等の検査内容が受診できます

がん検診について

近年、様々な新規のがん検査が開発されており、医学的な評価や陽性者に対するフォローアップ方法が明確でないまま事業所や健保組合にて実施されている現状を踏まえ、厚生労働省より、科学的根拠に基づく「がん検診」を適切な精度管理の下で実施するための指針が示されています。

がん検診の目的

無症状、自覚症状のないうちにがんを早期発見し、早期に適切な治療を行うことによって、がんによる死亡リスクを減少させること。

国の指針で定めるがん検診

下記5つのがん検診を、科学的に効果が明らかな検診方法、対象年齢、受診間隔で実施し、精度管理を行うこと。

種類	検 査 項 目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	5 0 歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2 年に 1 回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	2 0 歳代	2 年に 1 回
	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	3 0 歳以上	
	問診、視診及びHPV検査単独法 ※実施体制が整った自治体で選択可能		5 年に 1 回 ※罹患リスクが高い者については 1 年後に受診
肺がん検診	質問（問診）、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	4 0 歳以上 ※喀痰細胞診は原則として 5 0 歳以上の重喫煙者	年 1 回
乳がん検診	質問（問診）及び乳房エックス線検査（マンモグラフィ） ※視診、触診は推奨しない	4 0 歳以上	2 年に 1 回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	4 0 歳以上	年 1 回

がん検診のメリット・デメリット

がん検診のメリット・デメリットについても確認のうえ、がん検診を受診ください。

【メリット】

- ・早期発見することで、早期治療につながり、がんによる死亡率を下げることができます。
- ・早期であれば治る可能性は高く、治療も軽くすむことから、身体的・経済的負担が軽減されます。
- ・がんに限らず疾病が発見されることにより、適切な治療ができます。

【デメリット】

- ・がんを100%発見できるものではありません（偽陰性）。
- ・結果的に不必要な治療や検査を受けてしまう可能性があります（過剰診断・偽陽性）。
- ・検査によって身体に負担がかかる場合があります（X線検査で使うバリウムは便秘、内視鏡による出血、放射線には被曝などの可能性など）。

がん検診の流れ

がん検診は、がんの疑いがあるか異常がないかを判定する検査です。

がんの疑いがあると判定された場合は、医療機関での精密検査を指示されます。

「要精密検査」の判定があった場合は、早期発見、早期治療のための検査です、放置せず、必ず医療機関を受診してください。

早期発見、早期治療により、がんとわかって90%以上の方が助かります。

異常なしと判定された場合でも、定期的にがん検診を受けましょう。